

* 9つの「御霊の実」のうち、人に対する性質である「寛容」「親切」「善意」について。

1. 「寛容」。寛容とは、心が大きく広いこと。人を責めない、さばかない、人を受け入れる性質のこと。人は誰でも持って生まれた素質や育った環境によって先入観や偏見をもっている。なかなかそこから抜け出られない。時に、同じ考えをもっていない人たちを裁いてしまうことがある。パウロも最初はそうであった。寛容を得るために必要なことは「忍耐」である。ちょっとしたことで怒ったり、不機嫌になったりする人は忍耐が足りない。「**ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。**」(ローマ9 : 22) 神様こそ寛容と忍耐の方であり、私たちを憐れんで私たちの罪を赦してくださっているのである。私たちはそのことに感謝し、人に対しても同じように寛容と忍耐を表わし、赦しに至るまで心を開くことができるようになりたい。

2. 「親切」。「慈愛」とも訳されている。聖書の意味する「親切」は、「良きサマリヤ人のたとえ」にあるように「自分を捨てて人に仕える」ということである。その本質はマタイ25 : 31 ~ 40のイエスのたとえ話にある。

「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』(マタイ 25:40)

心から人に仕えるためには、主に仕えるように仕えなければならない。自分を人より低く置き、謙虚さをもって自分をささげることである。

3. 「善意」。「親切」と意味は近いが、何が善か、神様の善はどういうものかを考えたとき、その概念は「親切」より更に深いと言える。「私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあられ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。」(ローマ15 : 14) 時には敢えて助けないで見守り祈ることが善かもしれない。また、間違いを正して教えることが善意であるかもしれない。「善意」は「親切」の背後に働く知恵ある思いとでも言ったらよいだろう。

* 「愛」「喜び」「平安」と同じように、「寛容」「親切」「善意」も神のご性質であり、私たち人間に与えられたものである。これらはイエス・キリストを通して私たちに表され、主イエスを信じ、主イエスに従う中で高めていくことができるものである。私たちのうちにおられる御霊の働きによって。